

2023年07月07日
一般社団法人アルバ・エデュ

「話す力」 教員研修パッケージ提供開始 子どもたちの“話す力”を育み、コミュニケーション能力を向上

～1都13市区町で導入の教員向け研修をパッケージ化。
AIの進化が加速する時代に必要とされる力を育む仕組みづくりを目指す～

一般社団法人アルバ・エデュ(東京都文京区、代表理事：竹内 明日香、以下「アルバ・エデュ」)は2023年7月7日、子どもたちの“話す力”を育む「話す力」教員向け研修パッケージの提供を開始したことをお知らせします。



教員研修写真

アルバ・エデュでは、2022年より1都13市区町・約5.2万人の教員・児童・生徒に対し、子どもたちの可能性を引き出し、自己効力感が高まるような指導や評価ができることを目的としたプログラムを実施してまいりました。

この実績を元に新たに教員研修パッケージとして提供することで、オンライン・オフラインどちらにも対応し、より多くの自治体・学校に導入いただきやすくなります。

受講者数(モデル授業・教員研修)

52,066人

導入自治体数

1都13市区町



勉強が苦手な子が主体的に勉強が苦手な子が主体的に取り組めるのがいいですね。アクティブ・ラーニングといってもなかなか話せない子にとって、救いとなるプログラムですね。

自分の考えを「深める」作業をすると、こんなにも生き生きと発表できるようになるのかと実感しました。



今まで自分の苦手だったプレゼンが楽しくなった。これからも学んだことをしっかり使って、人に言いたいことを言えるようにしたい。

僕は話すことで世界を変えられるとわかりました。話すことでみんなが納得してくれたりみんなが手伝ってくれたりしてくれます。みんなの協力を得て世界を変えていきたいなとほくは思いました。



学校公開で手を挙げているのを初めて見ました。感動です！

別人のように声が大きくなりました！もともと苦手教科だった英語のプレゼン大会に出て優勝しました。



自治体導入事例

■社会において最も求められているのは「コミュニケーション能力」

日本経済団体連合会が2018年度に行った「新卒採用に関するアンケート調査結果」によると、選考において最も重視する要素は「コミュニケーション能力」次いで「主体性」となっており、年々重要視する企業が増えています。(図：選考時に重要する要素)

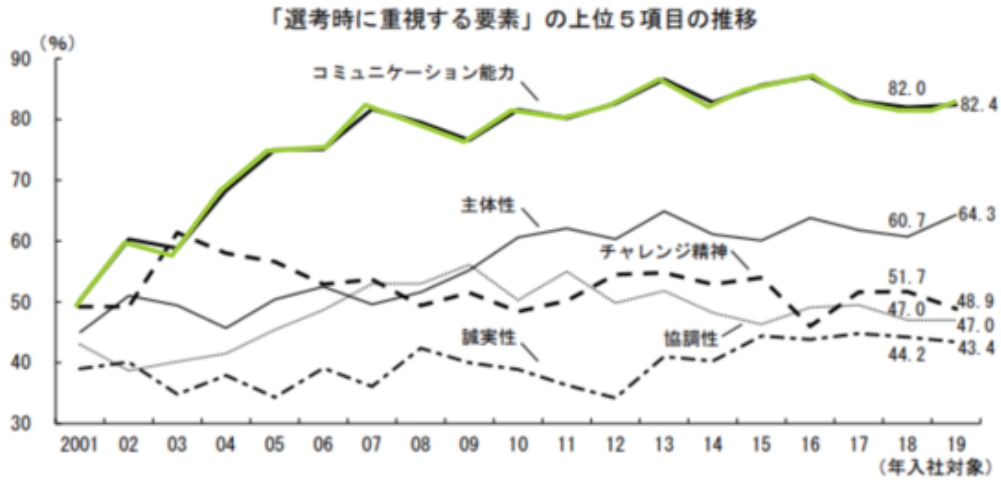
しかし、大半の日本人は“話す力”に対する必要性を感じつつも、苦手を感じている現状があります。また、先進国と比較しても日本の子どもの“話す力”は低く、「自分の考えを根拠を示して説明すること」に課題があることがわかります。(図：コミュニケーション事例)

また「自分の意見や自分の行動で、国や社会は変えられない」という自己効力感の低さも、子どもたちの話す力を低下させている原因の一つです。

なぜ話す力が重要なのか？

話す力に対する社会的ニーズは高い

社会において最も求められているのは「コミュニケーション能力」



*「新卒採用に関するアンケート調査結果」(日本経済団体連合会、2018)

選考時に重要する要素

なぜ話す力が重要なのか？

話すことに対する必要性を感じつつも、苦手を感じる人が大半

これからの時代、必要だと思う言葉に関わる知識・能力

コミュニケーションの苦手度



文化庁
平成28年度「国語に関する世論調査」(n=2,015)

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
コミュニケーション総合調査(n=2,060)

コミュニケーション事例

■ 教員向け研修パッケージ概要

子どもたちを育成するためには、教員も「なぜ話す力が今の時代に必要か」「普段の授業とプレゼンで違う点はなにか」を理解することが必要です。今回の教員研修では、教員が指導する際のファシリテーションを学びます。教員の掛ける言葉一つで、子どもたちの自己肯定感は上がり、「もっと話したい」という意欲につながります。普段の授業から活用できるポイントを紹介し、教員同士のワークなどを通じて実践的な教員研修を行います。

これまでに特に要望の多かった3つのタイプのプログラムを用意しています。

3つの教員研修プログラム			
特にご要望の多い3つのタイプのプログラムをご案内			
研修タイプ	年次研修	希望研修	校内研修
対象者	5年目までの若年層向け 年次指定の教員(小学校・中学校)	全教員(小学校・中学校) 希望研修・合同研修どちらにも対応可	学校
よくある悩み ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 人前で話せず固まってしまう子がいる、どう支援してあげたらいいのだろう 手を挙げて発表する子が少ない、もっと活発な意見が飛び交うような学級にするにはどうしたらいいのだろう 話す力を高める指導や授業について知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> マスク生活が長引く中、集団の場でうまく自己表現できない子どもが増えていて心配だ 子ども一人一人が、自分の考えをよりよく伝えるための話す力を身に付け、生き生きと学校生活を送ることができたい 子どもたちにプレゼンテーションをさせる機会が増えてきたので、あらためて指導法について学びたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの「話す力」について課題を感じている。 思考力・判断力・表現力を伸ばす効果的な指導を開拓したい。 カリキュラムマネジメントのヒントが欲しい。 総合的な学習の時間で探究的な学びを促進したいが表面的な活動になってしまっている。
内容	講義、ワーク	講義、ワーク	講義、ワーク
実施形式	対面を推奨	リモート／対面	リモート／対面
所要時間	90分×1コマ	90分×1コマ	90分×1コマ

教員研修プログラム詳細

<研修プログラムの詳細>

1. なぜ今「話す力」が大切なのか

- (1) 世界の変化と日本の位置づけを把握する
- (2) 自己効力感と話す力の関係性

2. 教科横断的に育てる「話す力」とは

- (1) プレゼン指導のコツ(考えるカー伝えるカー見せる力)
- (2) 事例紹介

3. 心理的安全性と「話す力」

- (1) 教師に求められるファシリテーション力
- (2) こんな時どうする?(グループワーク)

4. まとめ

(1) 講評力を磨く

(2) ミニプレゼンと講評ワーク

※研修対象に合わせて内容を調整いたします。

■受講者の声

・今回の研修を受けさせてもらい、相手に伝えるテクニックを知って使えるようになることが、本当に大切なことではないのだなと感じました。

プレゼンを通して、一人ひとりが人や社会を動かす力を持っていることに気がつくことができ、そこからより良い社会を創る、社会で活躍できる人材の育成へとつながるのかなと思いました。

・自分の伝えたい気持ちを大切にすることが一番本校6年生の実態に合っていると感じました。

形式的なことや、他人がまとめた文章ではなく、自分の言葉を考えるということが発表の熱量に関係すると感じています。

■国が目指す「令和の日本型学校教育」と現場の声を合わせたプログラム

現在、文部科学省では、「令和の日本型学校教育」として、

・子どもたちの学び(授業観・学習観)とともに教師自身の学び(研修観)を転換し、「新たな教師の学びの姿」(個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」)を実現

・養成段階を含めた教職生活を通じた学びにおける、「理論と実践の往還」の実現(理論知(学問知)と実践知などの「二項対立」の陥穽に陥らない)を目指しています。

また現場では

- ・「話す力」について教員が学ぶ場がない
 - ・教科ではないので、研修をできる人が教員の中にいない
 - ・その場でよいと感じた研修でも、その後の受講者の変化がわかりづらい
- といった声がありました。

今回アルバ・エデュでは、これらの政策・現場の声を元に、受講した教員が、子どもたち向けに「主体的・対話的で深い学び」ができるような授業をするための知識や技術を身につけられるだけでなく、受講の事前事後にアンケートを行うことで受講者の変化が客観的にも主観的にも実感することができます。



プレゼンテーションは難しいと思っていたけれど、この授業でプレゼンのコツや発音を良くする練習を教えてもらったので、これからはいかしていきたい。

プレゼンって凄く面白くて、ワクワクするなと思った。



今まで自分の苦手だったプレゼンが楽しくなった。これからも学んだことをしっかり使って、人に言いたいことを言えるようにしたい。

自分の考えを「深める」作業をすると、こんなにも生き生きと発表するようになるのかと実感しました。



児童たちがもっと自分の考えで話し、自分の言葉を友達に伝えることができれば、プレゼンが「恥ずかしくて苦手なもの」から「楽しくてワクワクするもの」にかわっていくと感じました。

授業だけでなく教員研修もセットである点が非常に魅力的で、いわゆるプレゼンスキルにとどまらないプログラムのため、子どもたちの自信につながる。



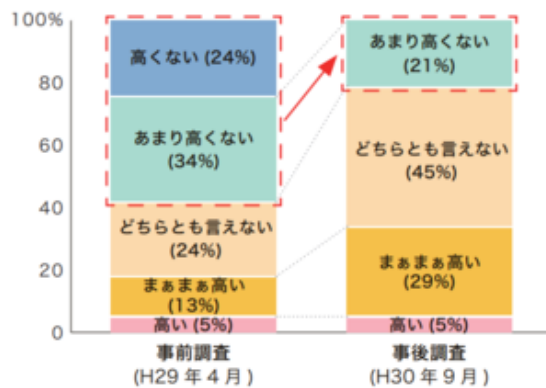
プログラムを受講した教員、児童・生徒、保護者の声

2. プログラムの教育効果について

過去にプログラムを実施した研究指定校では、「プレゼンに対するネガティブな自己評価が減少」、さらに「国語・数学・理科で約10%の学力向上」という結果も出ています。

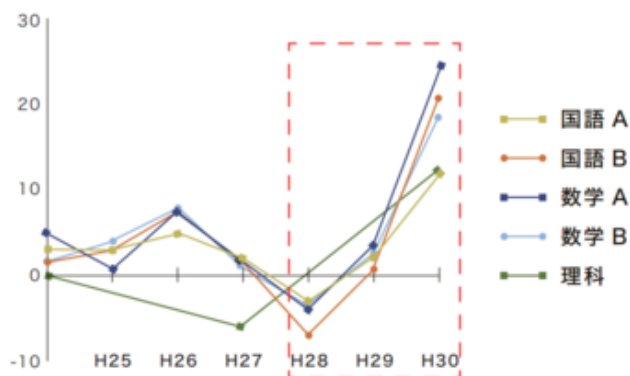
プレゼンに対する5段階自己評価

ネガティブな自己評価が減少



全国学力・学習状況調査の推移（全国平均を0としたときの本校の回答率との差）

国語・数学・理科で約10%の学力向上



2年間授業を実施した文京区中学校における、授業実施前後での変化を測定
 ※今回の結果については、アルバ・エデュが提供しているプログラム単体の導入効果だけでなく、日常の教育活動との相乗効果によるものです。

文京区の事例

■ 一般社団法人アルバ・エデュについて

アルバ・エデュは、変化の激しい時代を生きる児童・生徒たちが、自己理解を深め自己効力感をもって未来を切り拓いていくために「話す力」を高める教育を全国に広げています。これまでに約5.2万人の子ども・教員への授業実績があります(2023年6月時点)。代表理事の竹内が、金融業界で海外投資家と日本企業をつなぐ仕事をする中で、「日本の優れた製品やサービスの良さが伝わっていない」という現実にも何度も直面してきました。「話す力」は小さな成功体験を積み上げることによって高めることができるという信念のもと、教室内の心理的安全性をも高めるプログラムを提供しています。

所在地 : 東京都文京区音羽1-17-11 花和ビル308号

設立 : 2014年12月

代表理事 : 竹内 明日香

URL : <https://www.alba-edu.org/>

■ 代表理事 : 竹内 明日香について

東京大学法学部卒業。日本興業銀行(現みずほ銀行)を経て、2007年に独立し海外投資家向け情報発信や日系企業のプレゼン支援を提供して今日に至る。2014年、子どもの「話す力」の向上を目指す(社)アルバ・エデュを設立。教員研修や児童・生徒を対象としたモデル授業を展開。NRS株式会社社外取締役。一般社団法人未来の先生フォーラム理事。公立小元PTA会長。二男一女の母。著書に『すべての子どもに「話す力」を』(英治出版)。 <http://www.eijipress.co.jp/book/book.php?epcode=2308>

<本件に関するお問い合わせ先>

一般社団法人アルバ・エデュ

広報担当：水間

MAIL : aiko@alba-partners.com

プレスリリース画像



教員研修写真



自治体導入事例



選考時に重要する要素



コミュニケーション事例

3つの教員研修プログラム

特に重要なお知らせのプログラムのご案内

研修内容	実施研修	希望研修	校内研修
研修内容	<p>各年度での定例研修(7月～8月)と、本年度追加の研修(10月～11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 各年度での定例研修(7月～8月)と、本年度追加の研修(10月～11月) 2. 各年度での定例研修(7月～8月)と、本年度追加の研修(10月～11月) 3. 各年度での定例研修(7月～8月)と、本年度追加の研修(10月～11月) 	<p>全年度(10月～11月)と、本年度追加の研修(10月～11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 全年度(10月～11月)と、本年度追加の研修(10月～11月) 2. 全年度(10月～11月)と、本年度追加の研修(10月～11月) 3. 全年度(10月～11月)と、本年度追加の研修(10月～11月) 	<p>年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 年度 2. 年度 3. 年度
研修時間	1時間	1時間	1時間
研修形式	対面	対面	対面
研修場所	本校	本校	本校

教員研修プログラム詳細



プログラムを受講した教員、児童・生徒、保護者の声



文京区の事例